荒井建設

住民の生活環境の向上に寄与

全国にその名を知られる旭山動物園。園内で現在建設中の「オオカミの森」の工事現場に、「荒井建設」の文字が躍る。

6月中に完成・引き渡しされ、28日には同施設はオープンする予定だ。

同社は、建設物施工、建築企画・設計及び工事管理などを主要事業とし、100年以上にわたって旭川と共に歩んできた。公共インフラや公共施設、民間建築工事で実績を重ね、旭川市民はもちろん北海道民の生活環境向上に寄与している。

同社の設立は1894年。日清戦争勃発時にまで遡る。初代社長の荒井初一氏が富山県より来道し、米穀卸売業「荒井商店」を設立。その後、兄が富山で営んでいた土木請負業「荒井組」の経営主権者となり土木工事を施工、1904年には「荒井組」の名義を継承し、土木請負業を経営した。

1921年には会社組織へと改組し、1948年には資本金500万円で「荒井建設株式会社」として荒井寛三氏が三代目社長に就任し再出発を図ることとなった。個人の土木請負業からスタートした同社は、旭川とともに成長し、従業員数185人を抱える道内屈指の企業へと成長した。

同社は114年間にわたり、創業者の教えにある「地域への奉仕の精神」を貫いてきた。初一氏は私庭を市民へ開放し、破たんした地元の銀行を私財で支援したほか、私費で上川～層雲峡間12㌔の道路を自費で建設。層雲峡（そううんきょう）の日本百景選定にも寄与した。

また、「大雪山調査会」設立活動や大雪山の国立公園指定活動に邁進するなど、旭川に対する奉仕の姿勢を貫いてきた。こうした奉仕の精神は現在の同社にも受け継がれている。

旭川市国際交流活動基金へ2000万円を寄付したほか、スマトラ沖地震などの天災の際は社員募金による災害義損金を寄付。各事業所では、ゴミ拾いボランティアや同社の空中撮影システム「スカイキャッチャー」による地元小学校の人文字空撮・写真寄贈、地元小中学校のグラウンド整備など、自主的に地域ボランティアに取り組んでいる。

旭川とともにさらなる発展へ

同社では、「全社一丸となってお客様に喜ばれる質の高い建設物とサービスを提供する」という経営方針のもと、99年にISO9001の認証を取得するなど、品質、技術、安全、社会貢献に力を入れてきた。とりわけ、そうした活動の源泉となる人材に関しては、「経営には人ありき」という考え方のもと、全社をあげて育成している。

同社では、例年数人の新卒者を定期的に採用し、昨年度は中途採用を含めて10人強の社員を採用している。

経営を取り巻く環境が厳しい時期もあったが、「人を定期的に採用することが技能伝承を始めとした人材育成のポイント」（奥村章一・取締役専務執行役員）という考えのもと、毎年新入社員を採用している。

研修では社会経済生産性本部からも講師を招き、人格形成や話す力・聞く力の向上など、人とのコミュニケーション能力向上に力を入れている。

「当社は技術系の人間が多く、全員コミュニケーションが上手なわけではない。スキルも大事だが、各自のコミュニケーション能力やモチベーションを向上させることが、日々のOJTの効率化にもつながる」と奥村専務は語る。

05年からは、「A.S.P（荒井サバイバルプラン）」を開始し、人事制度や給与制度の全面的な見直しに着手。一級建築士などの外部資格取得への奨励金を支給するほか、そうした外部資格を職能資格アップの条件にするなど、各自の向上心を刺激するように人事制度を工夫している。

公共事業の削減など、道内の企業を取り巻く企業の環境は依然として厳しい。同社は地域とともに歩み、最高の顧客満足は何かを追求し、そのための最も重要な経営資源である人材の育成に全社を挙げて取り組んでいる。同社は、能力開発と人材形成に全力で取り組むことを通して、旭川を中心とする北海道地域のための付加価値の創造へ取り組んでいく方針だ。

◇

▽所在地＝旭川市4条西2丁目2番2号▽代表＝荒井保明・代表取締役社長執行役員▽資本金＝1億円▽従業員数＝185人

114年にわたって地域社会の発展に貢献してきた